

(曾於郡末吉町南之郷中岳)

位置と環境

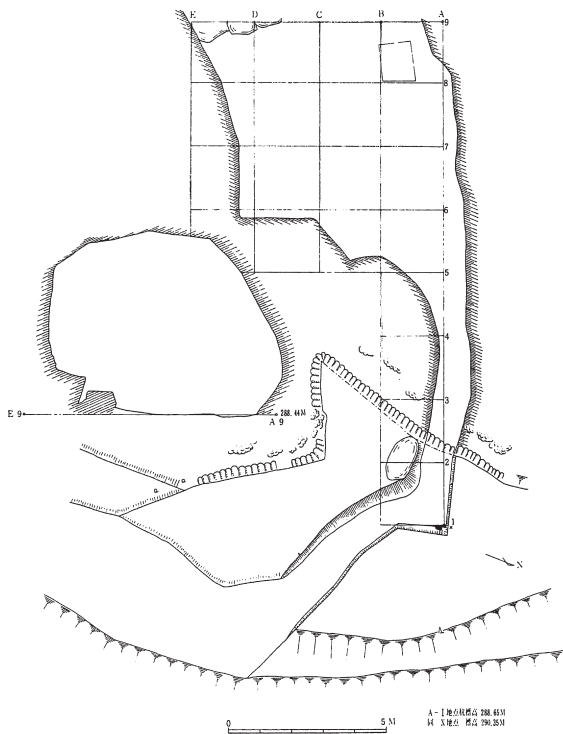
末吉町南之郷中岳にある自然洞穴である。末吉町は、宮崎県南部の都城盆地の南部に位置し、大淀川の上流が県境を流れ、末吉町の南部を流下し、その枝谷に中岳洞穴が、東々北方向に開口している。標高290m、シラス層に穿たれた水蝕による洞穴で、シラスと凝灰岩から出来ている。入り口幅5.3m、高さ2m、奥行き9m。前面の渓流水面との比高は約6mで、溪水は四季を通じて枯れることがない。

調査の経緯

中岳洞穴は、末吉町の歌人高木秀吉が、強い関心を持たれ、昭和44年5月6日同高木に同行して調査し、洞穴床面から黒川式土器片を発見した。高木の骨折りによって、末吉町教育委員会が調査する事になり、昭和53年2月以降、4回にわたって次の通り発掘調査を行った。

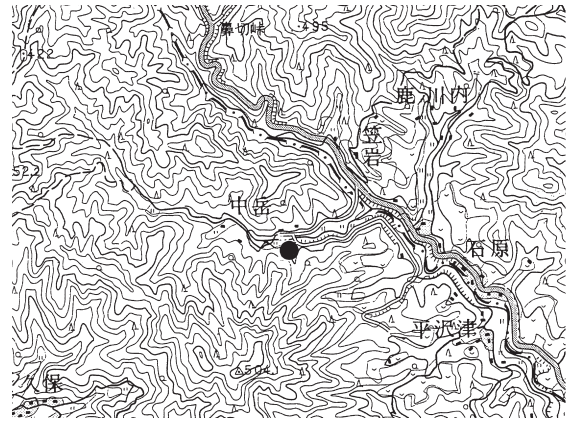
第1次調査 昭和53年2月20日より5日間。

第2次調査 昭和53年4月3日より5日間。



A-1地点288.65m×地点290.35m

第2図 中岳洞穴図



第1図 中岳洞穴の位置

第3次調査 昭和53年7月24日より6日間。

第4次調査 昭和54年3月24日より5日間。

洞穴は落盤が酷く、たがねで落石を割りながら調査するという状態であったが、ついに業者に依頼してハッパをかけて落石を除去し、調査区域を確保することになった(第2図)。

遺構と遺物

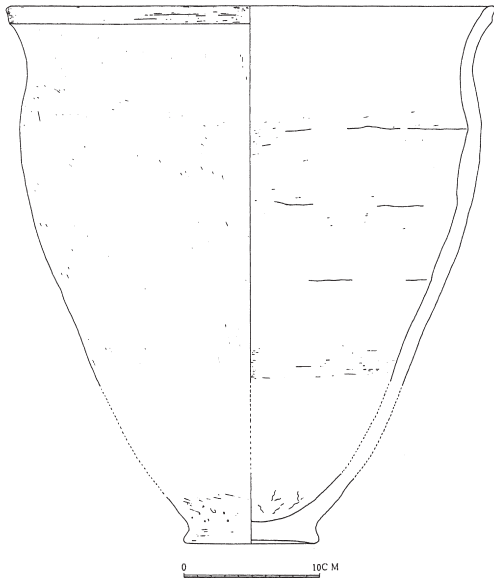
落石の除去によって、調査できた区域は、入り口の隘路を6m入った8m四方の広がりであった。落石の下は、二次堆積のシラス層と、褐色の遺物包含層が局部的に入れ混ざった状態で、また薄い互層を成して堆積し、その間に、大小の落石が混じっており、連続した地層形成はみられなかった。前庭地表面の水準点より最大3mの深さまで掘り下げて、無遺物層に達し、更に掘り下げた結果、1.4mの深さで最初の浸蝕による洞穴形成時の洞穴底面に達した。従って洞穴形成時の底面は前庭地表面より4.4mの深さに達し、下から、粘質褐色砂層・黄色粗粒砂層・黄色細砂層の堆積が見られ、この間には落石は見られず、舟底形の中窪みの安定した洞穴が出現して、ヒトが住み着き、狩猟生活が始まった。縄文後期中頃である。遺構にはA. 7区～A. 8区に、長径140cm、短径98cm、深さ約30cmの炉跡、B 7区に長径56cm、短径33cm、深さ12cmの卵形の土壇、C. 7区より、西隅へかけて、東西115cm、南北86cmの範囲に角礫が集中して、焚き火の後が顕著で、周辺を含めて土器・石器・獣骨などが多量出土し、炉を中心とする生活面である。

遺物としては、土器・石器・貝器。装飾品および、

自然遺物の貝類・動物骨が出土している。

土器は、縄文後期後半の西平式・三万田式・御領式および、晩期の入佐式・黒川式が出土しており、中九州の文化の波及であるが、ここでは変容したものが出土しており、晩期には、黒川式と共に口縁部が肥厚した平底形深鉢が現れる。時代を飛んで、土師器の灯明皿も発見された。

石器では、礫器・剥片石器・スリ石・叩石・砥石



第3図 3類土器

円形石器・石錘・石皿が出土しており、円形礫器は偏平な礫に打剥を加えて刃部を形成したもので、晩期の上加世田式に共伴がしられており、スリキリ用砥石がみられるが、これは、市来式に共伴するもので、これは西平式と関連するものであろうか。

貝器ではハマグリの貝殻縁を剥離して、利器として使用したもの。ヒナマクラの垂飾等があり、骨製の簪もみられる。

自然遺物としては、海より18kmを隔てているが、ハマグリ・サルボウ・ツキヒガイ・イタヤガイ・カワニナ・タシナミオトメマイマイ・ヒナマクラの貝類94個体。イノシシ・シカ・ツキノワグマ・ウサギ・ムササビ・サルの7種の哺乳動物と鳥類のキジが出土している。

特徴

都城市の尾平野洞穴は、本遺跡に似た洞穴遺跡で、年代も一致し、自然遺物にイノシシ・シカなど哺乳動物もみられ、近接して地形地質も類似した遺跡で

あるが、継続年代は短く、キャンプ的な性格が推定されている。それに比べて、本遺跡は炉跡・集石遺構など、長期に及ぶ生活の跡を残しており、落盤に覆われて、調査できなかった遺跡区域の存在も推定される。本遺跡出土の土器をみると、テピカルな型式に、変容がみられ、それを育んだ社会的環境が存在したと考えられる。

資料の所在

出土遺物は、河口貞徳宅に保管されている。

参考文献

末吉町教育委員会1980「中岳洞穴」『末吉町埋蔵文化財調査報告書』1

今泉吉典1960『原色哺乳類図鑑』保育社

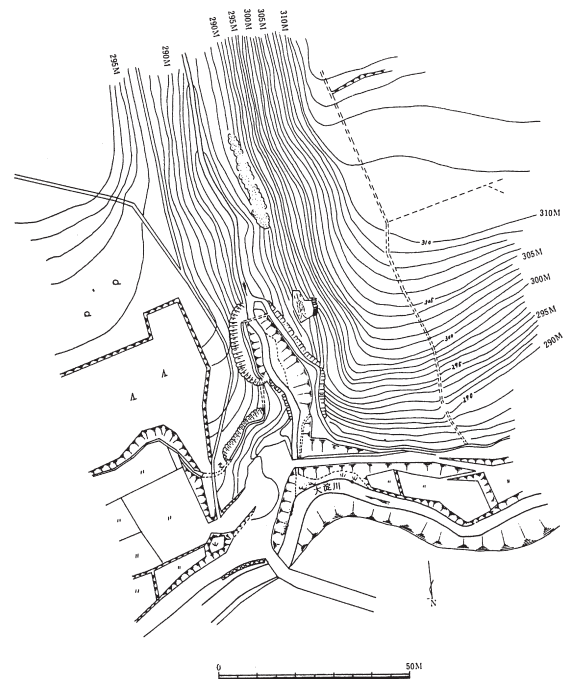
加藤嘉太郎1979『家畜解剖図説』上巻 養賢堂

直良信夫1972「古代遺跡発掘の脊椎動物遺体」校倉書房

都城市教育委員会1988「尾平野洞穴」『都城市遺跡詳細分布調査報告書「市内南部」』

小林久雄1937「宮崎県北諸県郡中郷村二俣尾平野洞穴住居」『考古学』第八巻五号 東京考古学会

桑畑光博1989「尾平野洞穴」『宮崎県史資料編、考古』1 宮崎県 (河口貞徳)



第4図 中岳洞穴地形図